TIC NEWS

vol.118
2016.1

（公財）とやま国際センター
〒930-0856　富山市牛島新町5-5
インテックビル4F（タワー111）
TEL（076）444-2500
FAX（076）444-2600
E-mail：tic@tic-toyama.or.jp
URL：http://www.tic-toyama.or.jp

第20回とやま国際草の根交流賞・平成27年度富山県知事表彰（国際交流部門）受賞者の皆様

第20回とやま国際草の根交流賞表彰式

去る11月６日、富山県庁大会議室において、国際交流･協力活動を草の根レベルで実践している団体、個人を表彰する“とやま国際草の根交流賞”の表彰式が富山県知事表彰（国際交流部門）とあわせて行われました。

第20回とやま国際草の根交流賞受賞者

国際交流・協力活動を草の根レベルで実践している団体、個人を表彰する“とやま国際草の根交流賞”。受賞者は以下の皆さまです。

ーとやま国際草の根交流賞ー

【個人】

市井　和彦 さん

富山県芸術文化協会の事務局長として、芸術文化団体の海外からの受入や派遣などの国際芸術文化交流の実施にあたって裏方の要となって尽力した。とやま世界こども舞台芸術祭の事務局長として運営事務全般の責任を担ったほか、海外派遣団の団長を務めるなど、国際交流に貢献している。

高輪　　修 さん

南砺ラオス会の広報部長として、ラオスとの国際交流の促進に貢献した。友好訪問のパネル展などで交流活動の紹介に努めたほか、ラオスの病院における医療器具不足を解消するため、アルミ缶収集の収益による医療器具等を贈る運動を発案し、自ら運動の中心となって尽力するなど国際交流・協力に貢献している。

【団体】

富山ルーマニア友好協会

会長　山藤　重徳

富山ルーマニア友好協会は、富山とルーマニアの相互理解や友好交流の促進を目的に、芸術文化、学術等の分野をはじめとする国際交流に努めている。これまで駐日ルーマニア大使を招へいし、県・市等へ表敬訪問したのをはじめ、定期的にルーマニアから音楽家を招へいし、県内でコンサートを開催するなど、芸術文化交流に貢献している。

にほんご広場なんと

代表　前田　啓子

「にほんご広場なんと」は、地域の外国人のための日本語教室として活動している。外国人と日本人サポーターが１対１で学習し、日本語を学ぶだけでなくお互いの生活習慣や文化を伝え合い、異文化を理解し、円滑な人間関係を築く力を養うことにもつながっており、地域の多文化共生に貢献している。

南砺市中学生オーストラリア派遣実行委員会

委員長　蓮沼　晃一

南砺市中学生オーストラリア派遣実行委員会は、毎年、南砺市の中学生をオーストラリアへ派遣し、青少年の国際交流・国際理解の促進に努めている。派遣される中学生は、事前研修で過去に参加した先輩から体験を踏まえた指導を受け、伝統を引き継いだうえで、現地の学校訪問やホームステイを行うなど、国際交流に貢献している。

勉強お助け隊

代表　米田　哲雄

勉強お助け隊は、外国人児童生徒への日本語指導及び学習支援を目的に、日本語能力の異なる外国人の子どもにマンツーマンで日本語や学校の宿題などの学習支援に取り組んでいる。子どもたちは、教室に通い続けることで、夢や目標を持つようになり、高校進学につながるケースも生まれるなど、学習支援の成果をあげており、多文化共生に貢献している。

ー富山県知事表彰（国際交流部門）ー

【個人】

泉　　英明 さん

平成16年に子どもたちのカンボジア王国への派遣事業を入善町に提案。翌年には現地へと赴き自らのネットワークを駆使して事業実現に向けた調整を行い、平成18年から事業がスタートした。以来、毎年町と現地との間に入り連絡調整を行うとともに、事業費用についての多額の寄附を行っている。平成23・25年には、新たにカンボジア王国の青少年の受入事業を町に提案するとともに、現地との調整を行い、実現に導くなど、県内の国際人材の育成や県民とカンボジア王国民との国際交流活動の促進に貢献している。

TIC 国際交流人材バンク 通訳者セミナー

テーマ『あなたもできる観光通訳ガイド』
日時：平成27年11月21日(土) 13：30～16：30
場所：環日本海交流会館　大会議室
講師：通訳案内士、一般社団法人日本観光通訳協会理事　根岸　正 氏

とやま国際センターでは、国際交流人材バンクの通訳登録者を主な対象とした通訳者セミナーを開催しています。今年度は、北陸新幹線開業に伴い、ますます富山を訪れる外国人観光客をもてなす機会が増えることから、「あなたもできる観光通訳ガイド」というテーマでセミナーを開催し、35名が受講しました。

講師の根岸氏は、最近の旅行の傾向として、以前ゴールデンコースと呼ばれた人気都市「東京～富士・箱根～飛騨高山～京都・奈良～関西空港」を回る旅行より、東京から新幹線を利用して日本海沿岸などの地方へ直接訪れる訪日観光客が増えるなど、旅行形態が多様化し目的志向型へと変化していることが上げられ、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年には、およそ3,000万人の訪日観光客が見込まれ、東京以外の受け入れ場所が必要になることから、東京から２時間圏内で移動できる富山は、地の利点があり更なる受入需要が拡大すること、そのため今後ますます地方における観光通訳ガイド、ボランティアガイドが担う役割が重要になることを学びました。

根岸氏は、「観光通訳ガイドは民間外交官である」と語り、良いガイドの必要な５要素として、①外国語が流暢に話せることよりも、簡単な言葉で解りやすく複雑な話が説明出来る「語学力」、②ユーモアかつ分かり易い「プレゼンテーション力」、③時間に正確で、物事を上手くまとめる手際の良さが求められる「マネージメント力」、④「歴史・文化・観光地の知識が豊富」であること、⑤「ホスピタリティー」をあげ、学習すること、知識や経験を積むことは常に必要であるが、相手に自分の知識を全て与えるのではなく、喜んでもらえる情報を選ぶこと、相手のニーズに合わせること、そのための、目配り、相手への気配りや心遣いのあるホスピタリティーが最も重要であることを、ご自身の体験談や実例などを交え、丁寧にわかりやすく講義していただきました。

国際交流フェスティバル2015

日時：平成27年11月８日(日) 10：30～17：00
場所：富山駅自由通路・富山駅前CiCビル内（１、３F）
主催：国際交流フェスティバル2015実行委員会
共催：富山市民国際交流協会、(公財)とやま国際センター、JICA北陸

「異文化理解と交流」を深めることを目的に、19回目となる今年度は、３月の北陸新幹線開業により装いを新たにした富山駅構内をメイン会場とし、従来のCiCビルとの２会場で開催しました。

富山駅構内のイベントステージでは、新たな催しとして「ワールド･ゲーム大会」を開催したところ、韓国、中国、アメリカ、ブラジルなどの伝統的な遊びを10カ国からなる参加者が競い、大いに来場者を沸かせました。アルバニア出身のエンドリ・ラマさんが優勝しました。

またCiCビルの会場では、「世界の民族衣装の試着体験」や「第９回ロシア語スピーチコンテスト」を開催し、多くの参加者で賑わいました。

初めての富山駅構内での開催となりましたが、たくさんのボランティアの協力もあり、例年以上の7,000人を超える多くの来場者がありました。

外国人住民のための にほんごYOMIKAKI教室

日時：平成27年９月13日～平成28年１月24日　全10回
　　日曜日 10：30～12：00
場所：環日本海交流会館 大会議室
講師：日本語教育機関トヤマ・ヤポニカ講師　高畠 智美 氏、永山 香織 氏

県内在住の外国人向けに読み書きに特化した「にほんごYOMIKAKI教室」を開催中です。

この教室には、日常会話は問題ないが実は日本語の読み書きが苦手という方や、学校からの案内や回覧板に書いてあることがわかるようになりたい、もっと読み書きの勉強がしたいという外国人住民が参加しています。

教室は、日本語教師が講師として活動をコーディネートしていますが、日本人サポーターが外国人参加者に付き添い学習をサポートしているので、日本語の会話も読み書きも両方学べるところが参加者に好評です。

参加者からは、「日本に来て長いが、これまで勉強がなかなか続かなかった。この教室では楽しくリラックスして学ぶことができるので、家で宿題をするときも教室で話したことを思い出しながら勉強しています。」という声が聞かれました。そして日本人サポーターからは「今まで無意識に使っていた日本語についての知識が増えたし、外国人参加者から学ぶことも多い」との感想がありました。

今後はパソコンを使って書く練習なども行う予定です。

外国人にルーツをもつ子どものための学習支援ボランティア研修会

日時：平成27年10月３日(土) 13：30～16：45
場所：環日本海交流会館 大会議室
講師：アレッセ高岡（高岡外国人の子どものことばと学力を考える会）
　　代表　青木 由香 氏
　　認定NPO法人 多文化共生センター東京　千田　綾 氏

外国にルーツをもつ子どもたちの学校教育に関する現状を紹介し、学習支援ボランティアの育成を図るための研修会を開催しました。参加者は、日本語支援ボランティアや、外国人児童への学習支援ボランティアに興味関心のある方等17名が参加しました。

外国にルーツをもつ子どもたちを取り巻く状況には、様々な問題や課題を抱えているという現状があります。この研修会では、県内の現状や活動紹介、先進県の取り組みなどを聞き、ワークショップでは、実際の外国人児童の作文を添削して、どのように訂正指導するか等をグループで考える活動をしました。

参加者からは、「現状紹介だけではなく指導のポイントを学ぶことができ参考になった」、「自分の子どもへの教育にも役立つと思った」、「行政も真剣にこの問題に取り組んでほしい」などの声が聞かれ、学びや考える機会となる有意義な研修会となりました。

YOMIKAKI広場に参加の皆さん

平成27年度とやま国際センターの日本語支援事業

とやま国際センターでは外国人住民の日本語支援のため、様々な事業を展開しています。夏には災害時における「やさしい日本語」の研修会も開催しました。

時代の変化に伴い、富山県在住の外国籍住民の方の日本語学習ニーズも多様化しています。当財団はそのような多様なニーズに応えられるような日本語学習支援の形を目指していきたいと考えています。

日本語教室アドバイザー派遣事業

とやま国際センターでは、地域日本語教室で活動する日本語ボランティアの実践力の向上を図るため、希望する県内の教室に日本語教室運営アドバイザーを派遣しています。アドバイザーからは日本語指導に関する専門的な知識、技能のほか、教室運営に対するアドバイスが得られます。

識字活動を行っている教室には、「様々な背景、読み書きレベルの外国人参加者がいる中で、どのように漢字学習などを取り入れるか迷うことが多い」など、日ごろ困難に感じていることや悩みがあります。アドバイザーからは「学習者の興味のあるテーマで対話しながら、本人に必要な漢字を拾い、覚えてもらう。時には日本人サポーターにも説明が難しい文章があったりするが、負担に思う必要はなく、互いに知らないことで対話が生まれることもある。」などのアドバイスがありました。

地域の日本語教室の現場の問題・課題に対し、活動現場に出向き直に助言を行うこの制度は、日本語教室で活動するボランティアの皆さんに大変好評をいただいております。

“日本語教室 in 黒部”での様子

とやま国際センターでは、その他にも、外国人住民の日本語学習を支援するボランティアを養成するための日本語ボランティア養成講座の開催や、災害時における「やさしい日本語」による情報提供研修会の実施などを行っております。また、日本語学者者への情報提供、日本語指導者の紹介、日本語教材の貸出を行うなど、様々な日本語学習支援を行っております。

富山県内の日本語学校･教室の情報がTICのホームページに掲載されています！

富山県内の日本語学校・教室の情報を日本語・英語でホームページに掲載しています。日本語教室をお探しの方はまずはチェックしてみてください！

日本語指導者を紹介します！

とやま国際センターの国際交流人材バンクでは日本語指導者の登録・紹介を行っています。個人指導など、より学習者のニーズに沿った形の日本語学習を希望される方は、お問合せください。

日本語教材の貸出を行っています！

環日本海交流会館の会議室は日本語学習や、日本語ボランティアの研修によく利用されていますが、約2,200点の日本語教材の貸出も行うなど、日本語学習者、サポーターにとっては非常に利用しやすい環境となっています。コイン式コピー機、Wi-Fi環境も整っています。是非、ご利用ください！

青年海外協力隊50周年記念式典が開催されました！

JICAは、2015年11月17日(火)、青年海外協力隊事業が50周年を迎えたことを記念して、パシフィコ横浜で記念式典を開催しました。式典には天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、青年海外協力隊をはじめとするJICAボランティア経験者や支援者など約4,500名が出席しました。「富山県青年海外協力隊を育てる会」や「青年海外協力隊富山県OB会」、富山県出身のOB・OGなども参加し、50年の歩みに思いを馳せました。

青年海外協力隊富山県OB会大角会長（式典会場にて）

【大角OB会長より一言】

50周年という節目に、OB・OGや関係者が一堂に会する場に参加できたことはとてもありがたいことです。これは、偉大な先輩方の頑張りがあったからこそであると思います。もし、100周年があり得るとすれば、それは我々の頑張り次第です！

JICAボランティアからの現地リポート

今回はマラウイ共和国から届いた青年海外協力隊員　南　香莉 さんからのお便りをご紹介します。

マラウイという国をご存じですか？どのようなイメージを抱かれますか？マラウイは南部アフリカにある内陸の小国です。私は青年海外協力隊に応募するまで知りませんでした。そしてマラウイは最貧国の１つとされています。あれ？マラウイって最貧国なの？これが私の持った印象です。最貧国というと、飢餓に苦しみ人々が痩せ細り、悲壮感あるイメージをもっていました。しかしこの国はその印象には当てはまりません。

彼らは挨拶を大切にし、誰とでも楽しくおしゃべりをします。人の子供の面倒を見るのは当たり前、トマトを買うとボーナス！と言って買ったのと同じ量をおまけしてくれたりもします。笑顔が溢れています。もちろん日本人から見るとないものだらけです。バスに乗るお金も自転車も持たないので、妊婦や病人でさえも何十キロも歩いて病院に向かいます。国民の約80%、特に村ではほぼ全員が農業を行っていますが、農具は鍬一本だけ、あとは人力に頼って畑を耕します。ただ彼らにとってこれはずっと昔から変わらない当たり前のことなのです。

南　香莉さん
派 遣 国：マラウイ
職　　種：感染症・エイズ対策
派遣期間：平成26年7月～平成28年7月
配 属 先：ムジンバ県社会福祉事務所

このように平和なマラウイでも他サブサハラ・アフリカ諸国の例に漏れずHIV/AIDSの蔓延が問題となっており、私はこのHIV/AIDSの対策を行っています。私が住むような地方の村では人材不足が問題であり、保健機能のサポートを担うボランティアの役割が大きくなっています。彼らボランティアを機能させ、末端に届くHIV/AIDS対策を目指しています。「アズング（彼らは肌の色が違う外国人をこう呼び、インド人も欧米人も日本人もみなアズングです）がお金を持って突然やってきて、何かやって帰っていく。もし問題があってもアズングが解決するのを待つだけ。」という考えが蔓延しています。これまでそのような支援がされてきたからです。そんな彼らに問題意識を持ってもらい行動を起こしてもらうため、ワークショップの開催などを行っています。

Voices from the world ～アルゼンチン共和国 ブエノスアイレス～

世界の富山ファンからのメッセージ

村藤　　修 さん（アルゼンチン富山県人会 副会長）

Q．今、どんなお仕事をされていますか？

A．現在の仕事は南米アルゼンチンで日本食材の輸入卸や、当地の物産の輸出を手掛けています。昨今の世界的な日本食ブームにあやかり、アルゼンチンでも空前の「SUSHIブーム」が起きています。和食文化が無形文化遺産に登録された今、我が社ではこの日本食の普及、食文化の伝播による新しい文化創造を標榜しています。ここアルゼンチンは圧倒的な肉食文化ですが、日本は世界でも屈指の食文化を誇っていて、その中心は海の幸を主体にした独自の食材です。日本人ほど海の幸を巧みに食生活に取り入れている国民は他にありません。今、私はアルゼンチンの食生活に革命を起こすべく、海産資源をより多く活用した食材を安定供給したいと願っています。「和食」は自然を尊ぶという日本人の気質の体現であり、これからはヘルシーで時代にマッチした豊かな食生活に貢献していくつもりです。

Q．近況について教えてください。

A．平成27年10月に富山県から南米親善訪問団がアルゼンチンを訪問されました。総勢34名の大所帯で当地の在亜富山県人会との交流を深めていただきました。在亜富山県人会は1966年２月17日に産声を上げ、来年には創立50年の節目を迎えます。

当地における富山県人の移住の歴史は、1920年に土居祐縁氏、飯野栄作氏が入植して以来、首都ブエノスアイレスの近郊を中心に全国規模で点在して、その世帯数も現在60家族、会員数も250名に達しています。５年後には富山県人がアルゼンチンに移住して100年に到達する記念すべき日も控えています。この先駆者の富山への熱い思いが結実して県人会の基礎も確立し、現在は会員の協力により親睦をますます深めるべく、年次総会やピクニック、懇親会等を行っています。又、富山から定期的に青年の船、青年の翼、南米親善訪問団等の大型団体を受入れ、県との交流に努めると共に、これまで36名に上る県人子弟を、海外技術研修員、県費留学生として富山に派遣しております。

しかしながら、現在海外の移住社会のどこもが抱える深刻な一世高齢化の現状ですが、ここ在亜富山県人会も御多分にもれず、新天地を求め海外雄飛の希望に燃えて来亜した先覚者の多くは鬼籍に入りました。新たな富山県人ファミリーにもすでに県系人５世まで誕生しており、世代交代が急激に進んでいます。そして富山県人会の運営主体もすでに２世、３世の世代になってきていますが、当地には富山で留学生、研修員として学んだO.B.が“立山友の会”を組織し、横の絆もしっかりとしています。

今後この若い世代がアルゼンチン社会の担い手として各々の歴史を再認識し、日本人、富山県人のアイデンティティーを受け継ぎ、後継者としてより一層発展することを期待するものです。

Q．最後に富山の人に一言メッセージをお願いします。

A．アルゼンチンと云えば有名なのはタンゴとサッカーですが、ラグビーワールドカップ2015でも準決勝まで勝ち進み４位の成績を残すスポーツ大国です。最近、ここにサッカーの指導者を目指して青年が富山から研修に来ていました。何でもこの資格が日本よりも簡単に取得でき、世界で通用するものらしいのです。今や全ての業界が世界規模で動いています。SNSで情報が簡単に手に入る世の中です。原始林を切り開いて荒野を開拓した時代とは違います。富山は海や山の自然に恵まれた大変美しいところですが、これからの若い世代の人は日本の枠に囚われず世界に目を向けて選択肢を広げてください。「一隅を照らすもの、世界の四方を照らすものなり」

こんな“国際交流”やっています！

“韓国水原市日本語学習者との交流事業”

チングサラントンアリ（富山市）

～TICから助成した事業をご紹介します～

平成18年に発足以来、市民レベルでの日韓交流・親善に取り組んできたチングサラントンアリは、語学勉強会・研修会、留学生等との交流会を開催するなど活発な交流活動を展開してきました。

平成27年８月28日～30日には相互交流を行っている韓国水原市国際交流センター日本語クラブ会員８名が来県し、チングサラントンアリ会員の６家庭でホームステイを行いました。参加者は富山の伝統芸能“おわら踊り”の体験、黒部峡谷、YKKセンターパークを視察するなど富山県の歴史･文化に触れ、会員同士で温泉に浸かるなどして普段着の交流を育みました。

作ってみよう！インドネシア料理

Soto Ayam（ソトアヤム）

インドネシア出身　留学生
ディア アニンタ クスティアリニ さん
お薦め料理！

ソトアヤムは黄色のスパイシーなチキンスープで、一般的にご飯やロントン（バナナの皮でお米を包んで蒸したケーキ）と一緒に食べられます。インドネシアのソト（インドネシア語でスープの意味）は、地域によっていろんな味があり、ソトアヤムは最も人気のある伝統的なスープです。鶏肉の代わりに牛肉を使ってもいいですし、コヤ（えびせんべいと揚げたニンニクを混ぜたスパイス）や、辛味調味料サムバルを加えてもいいです。寒いこの時期に飲むと心が温まる一品ですよ。

～作り方～

1. 水に４等分した鶏肉を入れ沸騰するまでゆでる。
2. Ａをミルで砕いて混ぜ合わせる。
3. フライパンにサラダ油をひき、２とレモングラス、ライムリーフを香りがたつまで炒める。
4. １に３を加えて鶏肉が柔らかくなるまでかき混ぜながら煮込む。
5. 鶏肉を取り出し表面の水気をきった後、黄金色になるまで揚げる。
6. ４にＢを入れ、味を整える。
7. 細かくほぐした鶏肉を器にいれ、好みの具を入れ、６のスープを注ぐ。

＊飾りつけに薄切りライム、フライドエシャロット等もOKです。

～材料～（６人分）

［スープ］
鶏肉…… 500g
水 ……2L
Ａ
ニンニク…… 6片
エシャロット…… 10個
生姜……2cm角
ターメリック……4cm
（パウダーなら小さじ3）
キャンドルナッツ
（軽く炒ったもの）…… 4個
レモングラス…… 1本
ライムリーフ…… 5枚
Ｂ　ホワイトペッパー、砂糖、塩 …適量

［具］
ゆで卵、お湯で戻した春雨、湯通ししたモヤシ、キャベツの千切り、みじん切りしたセロリ

TICからのお知らせ

これからの行事予定

日本海シンポジウム

いのち輝く未来を考える－豊穣の海・富山湾から－
２月20日（土）13：30～16：30　北日本新聞ホール
基調講演「森が育む魚たち」
講師：山下　　洋 氏
（京都大学フィールド科学教育研究センター副センター長）
パネルディスカッション
「森里海の循環と共生－富山湾から考える－」
コーディネーター：秋道　智彌 氏
（総合地球環境学研究所名誉教授）
パネリスト：山下　　洋 氏
（シンポジウム基調講演講師）
三木奈都子 氏
（（独）水産大学校水産流通経営学科教授）
小堺　卓治 氏（氷見市立博物館館長）

JET世界まつり2016

２月14日（日）12：00～16：00
富山県民共生センターサンフォルテ
テーマ“世界 de 愛”
ステージアトラクション、出身国紹介ブース、キッズコーナー、国際カフェ、異文化体験コーナー、民族衣装コーナー

電話通訳サポート

外国人の方が直接専門機関に相談されたい場合、電話通訳サポートが利用できます。三者通話機を使い相談員が通訳します。

電話通訳サポート専用ダイヤル
076-441-5654

環日本海交流会館 新着図書のご案内

～新しく図書が入りました！～

【図書】
文化初級日本語Ⅰ、Ⅱ改訂版
みんなの日本語　第２版シリーズ

【映画DVD】
８月の家族たち
ホビット　竜に奪われた王国
アトランティスのこころ
インセプション
人生の特等席
硫黄島からの手紙
など、多数入りました。

（公財）とやま国際センター賛助会員募集及び寄付のお願い

公益財団法人とやま国際センターは、民間レベルの国際交流、国際協力を推進するため、様々な事業に取り組んでいます。TICの事業にご支援いただける賛助会員の方を募集しています。

年会費（１口）個人会員　3,000円
団体会員　30,000円

また、財政基盤の充実を図るため、寄付についてもよろしくお願い申し上げます。